

**公益財団法人宗像ユリックス**  
**平成 30 年度事業計画**

平成 30 年 3 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	2
2. 平成 29 年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	3
(2) 事業運営	
① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	4～5
② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	6
③ 収 2 「利用者サービス事業」	7
④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」	8～11
⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	12～13
⑥ 公 2 「文化芸術振興事業（文化講座運営事業）」	14
⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	15～16
⑧ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	17
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	18
② 財政運営	18

## 1. はじめに

平成 30 年度は公益財団法人宗像ユリックスにとって三つの節目を迎える重要な年となります。

まず第一に、宗像市から第 4 期指定管理業務を受託したことです。今後 4 年間にわたって、宗像市が掲げる文化政策を具体的に展開していく一翼を担います。その拠点施設としての宗像ユリックスにはこれまでも増して新しいステージを展開する覚悟が求められます。

二つ目は、開館 30 周年の節目を迎えることです。1988 年に発足した宗像ユリックスは、文化芸術の創造と継承、表現と鑑賞の場として、またスポーツと健康づくり、生涯学習を併せた広域的な交流拠点として機能し続けてきました。これまでの 30 年間の歩みを自負と誇りをもって総括するとともに、年間を通して記念事業を実施してまいります。この節目を宗像ユリックスの新たな歴史へのスタートとして位置づけ、市民のみなさんと共に前に進んでいく決意を新たにします。

第三に、西日本新聞・TNC 宗像文化サークルの事業を引き継ぎ「にっこり文化講座」として新しい文化講座事業への取り組みを始めることです。ユリックスの開館と同時に発足した同文化サークルは、市民の文化活動や健康づくり、学びと交流の場として大きな役割を担ってきました。これをユリックスの公益事業として継続することになりました。先行き不透明な部分ではありますが、宗像の貴重な“市民文化の灯”を消すわけにはいきません。宗像市を中心に入念な検討を重ねたうえで、新たな事業として取り組むことが決まりました。ユリックスの文化講座事業らしい特色や新機軸も打ち出しながら、早く軌道に乗せられるよう全力を傾注してまいります。

最後に「神宿る島・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を受けての対応です、今後も関連したイベントなどが宗像ユリックスで開催されると考えられます。「世界遺産のまち」の文化の拠点としても宗像ユリックスがその役割をしっかりと果たすことが肝要です。

この事業計画は以上のような基本認識に立って組み上げたものです。これを揺るぎない覚悟で、スタッフが心を合わせてやり遂げていきます。市民、利用者のみなさんを初め、関係方面の方々にこれまでと変わらぬご指導、ご支援をいただきますようお願いする次第です。

## 2. 平成 30 年度管理運営の基本方針及び事業について

### (1) 基本方針

平成 30 年度は、第四期指定管理の 1 年目、最初の年であり、30 周年を迎える宗像ユリックスの新たなステージが始まる年でもある。

宗像市の文化芸術の大きな方針である「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の着実な実施のため、市や市民、利用者、各種団体との連携・協働を進めていく。

さらに、「宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録」の関連事業や宗像ユリックス 30 周年事業を推進していく。

#### ① 音楽のあふれるまちづくりに向けた活動

地域の元気ある未来づくりに寄与するため、幼少・学生など若い世代に重点をおき、アウトリーチ事業などの子どもの発育段階に資するための鑑賞・体験事業を計画的に実施する。

#### ② 文化芸術の振興事業の推進と関係機関との連携

宗像ミアーレ音楽祭、アウトリーチ事業、健康増進事業など文化芸術、歴史、科学、スポーツ及びレクリエーションに関する様々な事業をコミュニティ運営協議会や大学など各種団体と連携して実施していく。

#### ③ 健全財政への取り組み

収入改善のため、各施設の利用率、コンサートのチケット販売率の向上を目指すとともに収入に応じた経費の適正化を図る。また、新しい財源の確保のため、税制優遇制度の活用をしながら、市民、団体、企業からの寄付を募る。

#### ④ 「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

宗像ユリックスは開館 30 年を迎え、市民アンケートの結果や利用者の意向を踏まえて、これからも利用者が安全に、安心して利用できる施設として、老朽化対策や維持管理のための改善を市と連携して行っていく。

#### ⑤ 宗像ユリックス 30 周年事業への取り組み

30 周年を記念した事業を実施するとともに、30 年にわたる活動の総括を行い次のステージへの道筋を刻んでいく。

## (2) 事業運営

### ① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

平成 29 年度は 4 月に行ったイベントホール及びハーモニーホールの保全改修工事の影響により、利用者数及び利用料収入の減少が見られた。反面、改修工事により、楽屋の環境が改善されたほか、イベントホールロビーや廊下の美化が図られ、利用者の満足度向上につながるようになった。

過去の利用者への積極的なアプローチにより、リピーターの増加につなげていくとともに、お申込みいただいた利用者との綿密な打ち合わせにより、お客様のニーズを的確に捉え、利用者数や利用料金の増加に努めていく。

#### ● 条例改正への適切な対応

宗像市が平成 31 年 4 月に計画している利用料金の条例改正に伴う料金改定を受け、利用者の皆さまへの案内を滞りなく行っていく。

#### ● ご利用のお客様の利便性向上

サービス面として、「夜間有料学習室」、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に着した施策を継続して提供していくとともに、館内レストラン、ワゴン販売店舗との連携を図り、利便性を向上させるなど、新たな施設稼働率向上の施策立案及び実施を目指す。

#### ● 職員の接客対応スキル向上

窓口での接客・電話対応レベル向上を目指し、職員の積極的な研修への参加を行なう。

#### ● にっこり文化講座事業による施設利用率維持

にっこり文化講座事業の積極的拡大により利用率向上を目指す。

#### ● 貸出備品の精査と改善

お客様からの要望が多い備品の新規購入や、老朽化した備品の早期改修により、お客様の利便性向上を図る。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の 3 大指標の向上を目指す。

【 数値目標 】

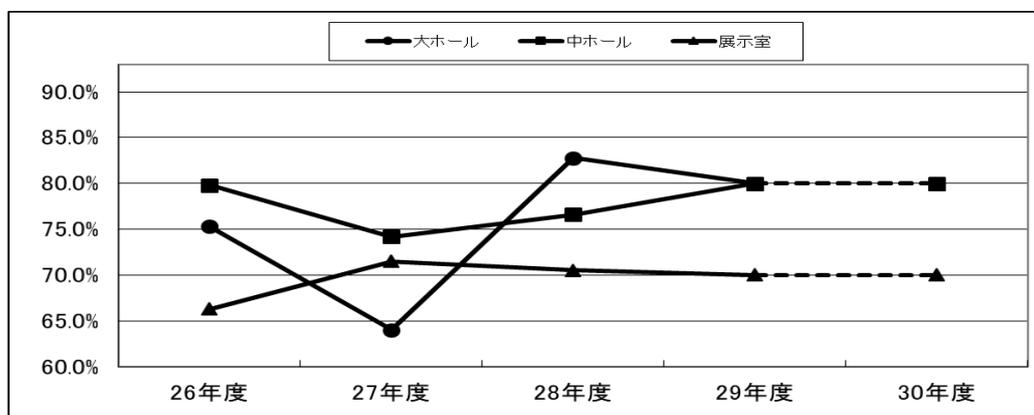
●3 大施設平均利用率 76.7% 【大ホール 80.0%、中ホール 80.0%、展示室 70.0%】

3 大施設利用率の推移

※29 年度は見込値、30 年度は目標値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
3大施設利用率	73.8%	69.9%	75.0%	76.7%	76.7%
大ホール	75.3%	64.0%	80.0%	80.0%	80.0%
中ホール	79.8%	74.2%	75.0%	80.0%	80.0%
展示室	66.3%	71.5%	70.0%	70.0%	70.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



●本館等利用者数 190,000 人 / 本館等利用料金 62,800,000 円

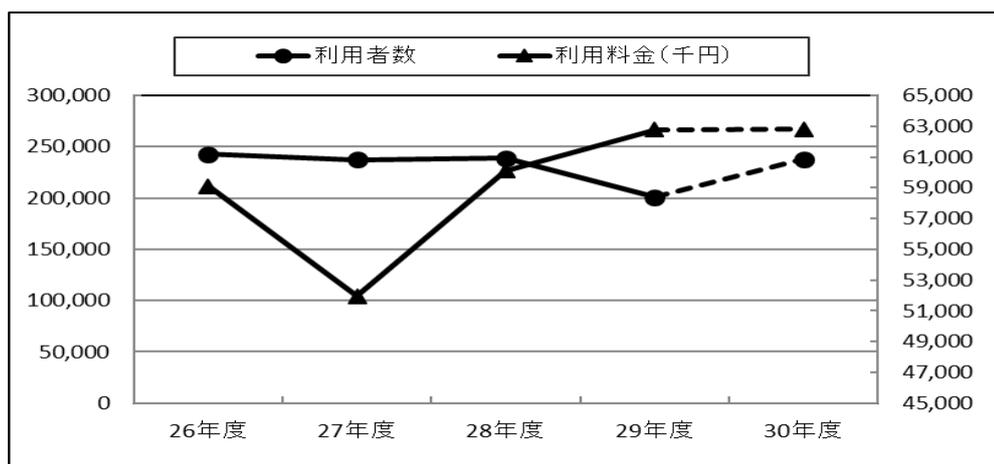
本館利用者数・利用料金の推移

※29 年度は見込値、30 年度は目標値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	242,524	237,290	238,980	201,000	238,000
対前年比	103.0%	97.8%	100.7%	84.1%	118.4%
利用料金(千円)	59,091	51,937	60,102	62,780	62,800
対前年比	105.4%	87.9%	115.7%	104.5%	100.0%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

平成 28 年度から平成 29 年度の 2 年間で宗像市が実施する保全工事が行われ、両ホール楽屋及びイベントホール前ロビーの改修や空調機器の改修、サーキットトレーニングコースの改修、園路灯の改修などが実施された。平成 30 年度は空調設備の改修を中心におこなわれる予定となっており、利用者とのトラブルや事故が起こらないよう、十分な調整を行っていく。

また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来場者の事故ゼロを目指す。

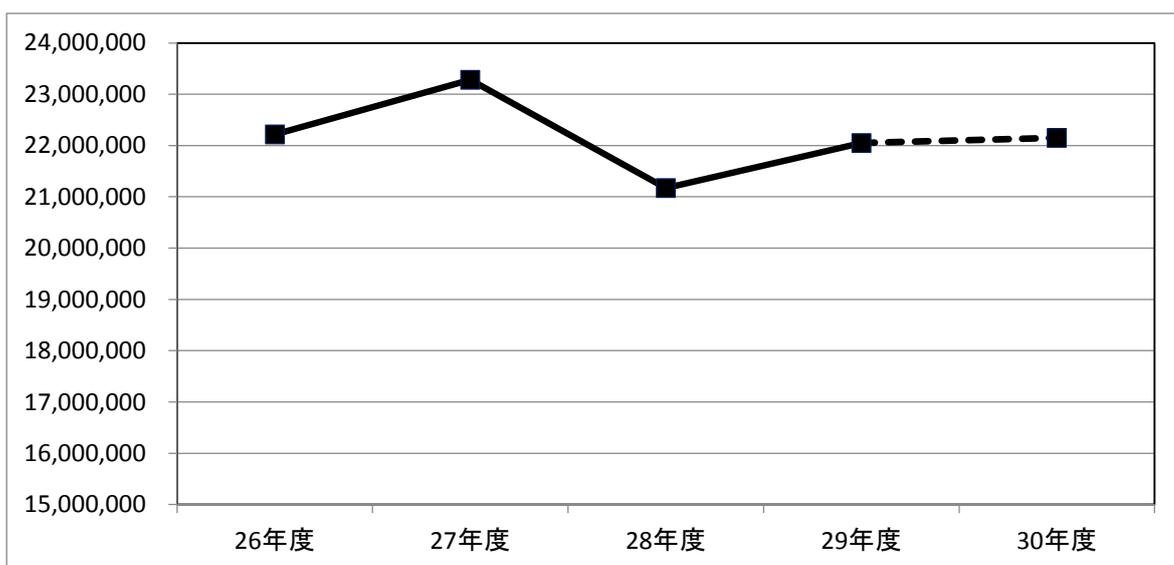
公園内の植栽管理は着実に実施されており、継続して今年度も更なるレベルアップを目指していく。

安全管理として、各設備の法定点検の徹底及び、例年実施している防災訓練を継続して実施し、不特定多数の来場者をお迎えする施設に勤務する、全職員の意識の維持向上を図っていく。

【 修繕状況 】

※29 年度は見込値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
修繕発生件数(件)	101	122	94	100	100
対前年度比	109.8%	120.8%	77.0%	106.4%	100.0%
修繕費(円)	22,218,978	23,279,194	21,168,934	22,050,000	22,150,000
対前年度比	130.3%	104.8%	90.9%	104.2%	100.5%



### ③ 収 2 「利用者サービス事業」

#### ●自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の 28 カ所に自動販売機を設置しており、手数料収入として、売上額の 15～35%を手数料として徴収しているが、近年、伸び悩んでいる。

機器の更新や設置場所の見直しを含めた計画の策定を行うことで、更なる手数料収入の増加と利用者の利便性の向上を目指す。

#### ●物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。継続して販売を行った上で、一昨年度行なった 4 年に一度の市民アンケート結果を踏まえ、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

また、弁当、花の注文代行サービスの積極勧奨を行ない、お客様の利便性の向上を図ると同時に、更なる手数料収入の増加を目指すとともに、館内レストラン、ワゴン販売店舗との連携を図り、収入増加を目指す。

#### ④ 公2「文化芸術振興事業（文化事業）」

第四期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。

また、第三期指定管理期間よりスタートした「スマイルキッズプログラム」は、子育て・教育の分野への継続的・体系的な事業展開による地域の活性化と顧客の創造を目的としており一定の成果が感じられるが、今後も一つひとつの事業をブラッシュアップしながら、進化を続けることで、地域の人々の期待に応えていく。

そして、音楽祭をはじめとした様々な事業を通して、地域の人々を取り巻く社会的状況等に関わりなく、人々が潤いを感じ、心豊かな生活を実現する、「新しい広場」としての劇場・音楽堂を目指していく。

##### ●文化芸術に親しめる環境整備

＜コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出＞

アウトリーチ事業はコミュニティ・学校との連携協力を図りながらより積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。30年度も、子どもの発育段階に応じたアウトリーチ事業として、「未就園児とその母親」、「幼稚園・保育園児」、「小学生」、「中学生」を対象に実施する。今後も更なる質の向上を図り、経験品質を高めていく。また、鑑賞型事業との関連性を訴求することで、事業効果も高めていく。

そして、平成30年度より(一財)地域創造の「公共ホールダンス活性化事業」に取り組み、新たなジャンルでの企画制作能力の向上を図るために継続的に取り組んでいく。

##### ●文化芸術のための人づくり

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。併せて、アーティストや地域との積極的な交流を通して、必要となる専門性や地域特性の情報について、時間をかけて蓄積していく。

##### ●文化芸術を活かしたまちづくり

＜宗像ミアーレ音楽祭の継続ほか＞

平成25年度より継続的に実施している宗像ミアーレ音楽祭の反響は非常に大きく、長期的な視点をもった事業展開を行う。「ホールコンサート」はもちろん、「アウトリーチ」、「市民ステージ」の評価も高く、この形態を維持していく。そして、本音楽祭の大きな特徴は市民参画であり、市民の祭り、ハレの空間として位置付けて取り組む。

また、「ユリックスジュニアブラス」、「中学校吹奏楽部の学校別の奏法指導・合奏指導」、「ミアール吹奏楽団 500 人コンサート」を主軸として、吹奏楽活性化に向けた事業の流れをつくっていく。

#### ＜スマイルキッズプログラム＞

次代を担う子供たちが文化芸術を体験する場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。また、「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。

30 年度は、毎月 1 回開催している「すくすくコンサート」が好評であり、需要の高さを感じられることから、発展形として「すくすくワンコインコンサート」を定期的に行い、社会的な制約の多い未就園児とその母親の期待に応えたい。

この多くの事業で構成される「スマイルキッズプログラム」は社会的課題解決を意識した投資事業として位置づけて継続的に実施するとともに、専用広報紙を作成し、事業そのものの認知度を高めていくことで、宗像ユリックスに対してロイヤリティをもつ顧客の育成につなげていく。

#### 【対象事業】

- ・ 小学校 4 年生芸術鑑賞モデル事業
- ・ いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校・中学校対象など)
- ・ すくすくコンサート(アウトリーチ事業+ホール事業)
- ・ むなかた子ども芸術祭
- ・ ユリックス ジュニアブラス
- ・ ジャジャジャジャーで始まる・わくわく・ドキドキ♥オーケストラ体験
- ・ 九管ポップス ファミリーコンサート
- ・ 音楽の絵本 他

#### ●連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会等との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。昨年度、各地区コミュニティ運営協議会と連携し、「いきいき出前コンサート」を積極的に推進することを目的として覚書を締結し、具体的な活動をスタートさせた。本年度も連携関係を深めながら、事業を実施していく。同様に、福岡教育大学と連携に関する協定に基づく活動を行っていく。今後も関係機関との連携体制構築も着実にやっていく。

●「ユリックス スマイルクラブ」運営

平成 27 年度より、「ユリックス倶楽部」の内容を見直すとともに、新名称「ユリックススマイルクラブ」としてスタートした。今後は、会員がより使いやすく、よりメリットを享受できる制度確立へ目指す。

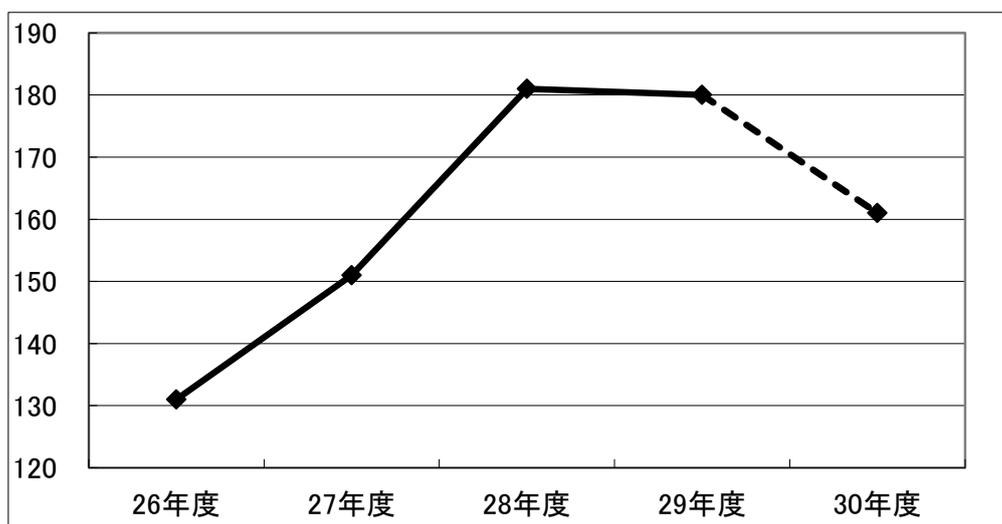
【 数値目標 】 ●事業本数 【161 本】

平成 30 年度は、共催事業を含め年間 161 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※29 年度は見込値、30 年度は目標値

事業ジャンル	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
音楽(クラシック)	10	11	9	10	11
音楽(クラシック以外)	6	12	14	15	15
映画	14	12	15	12	12
演劇・古典芸能	6	6	4	4	3
美術	2	2	2	2	2
アウトリーチ	85	96	94	84	84
ワークショップ			38	48	30
その他	8	12	5	5	4
合計	131	151	181	180	161



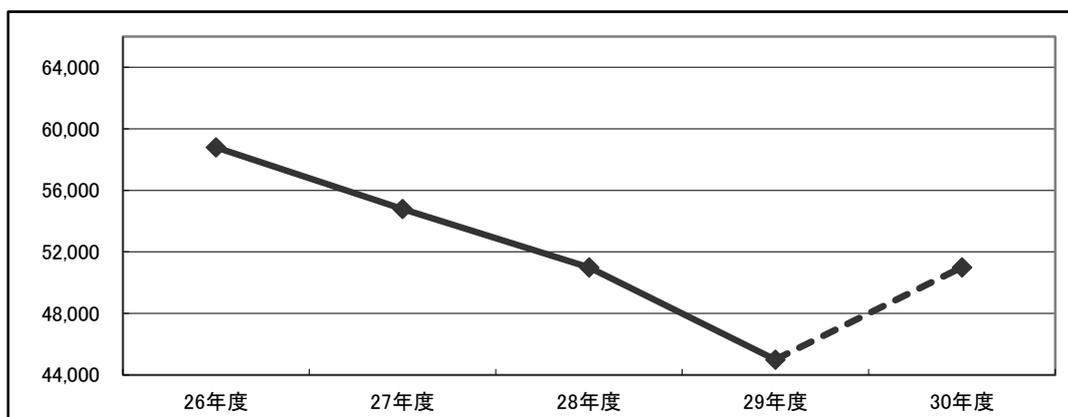
【 数値目標 】 ●入場者数 【51,000 人】

入場者数は、事業本数 161 本実施を前提条件として、51,000 人を目標とする。

文化事業・入場者数の推移

※29 年度は見込値、30 年度は目標値

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
入場者数	58,788	54,798	51,000	45,000	51,000
対前年比	90.9%	93.2%	93.1%	88.2%	113.3%
対前年人数	△ 5,912	△ 3,990	△ 3,798	△ 6,000	6,000



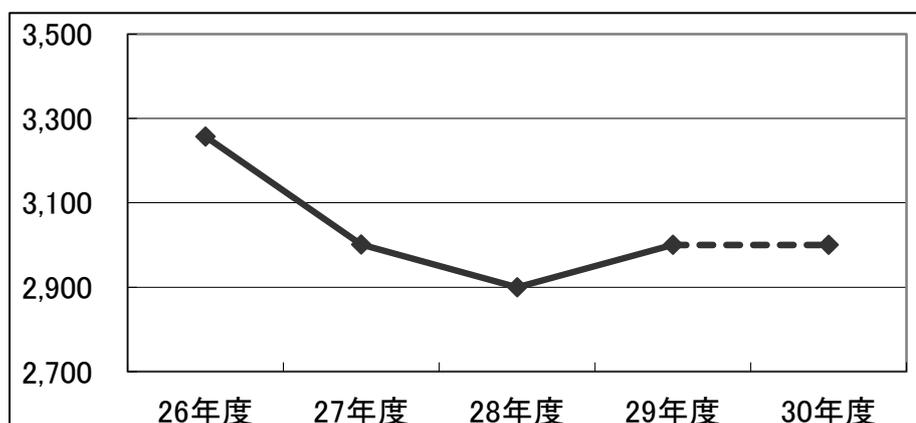
【 数値目標 】 ●ユリックス スマイルクラブ会員数 【3,000 人】

会員数目標を 3,000 人とし、会員数増に向けて積極的な広報を行う。

会員数の推移

※29 年度は見込値（平成 30 年 3 月 20 日現在）、30 年度は目標値

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
会員数	3,257	3,001	2,900	3,000	3,000
対前年比	95.3%	92.1%	96.6%	103.4%	100.0%
対前年人数	△ 160	△ 256	△ 101	100	0



## ⑤ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

来場者のニーズに即したプログラムの提供をはじめ、天体観望会や小学生向けの講座「ほしぞら友の会」の実施、ボランティアの活動支援など地域に根差した活動などを継続してきた結果、同規模プラネタリウムとしては全国有数の入場者数を誇っている。今後、入場者数が減少しないよう、さらなる事業の質向上を継続していくとともに、年間パスポート制度の導入など新たな施策を行う。

### ●来場者のニーズに即したプログラムの提供

年齢層に合わせた内容や星と音楽・映像をメインとしたプログラムの提供を行っている。さらに、これを解説員による生解説で実施しており、これが近隣他館にはない魅力となっており、リピート率が安定し入場者数も高い水準を維持している。今後も来場者の期待を裏切らない番組制作を継続していく。

子ども向けプログラムでは、来場者がいつ来ても違った内容を楽しめるよう、ショートストーリーなど内容の定期的な変更を続けており、好評となっている。今後も、子どもたちが何度も通ってくれるような仕組み作りを続けて行く。

また、大人を中心に人気となっているリラクゼーションプログラムでは、星空や音楽・映像をゆったりと楽しめる空間作りを続けて行く。また、今年度は夜間投影を、七夕やクリスマス・バレンタインデーなど特定の日に実施してみる。

おとな向けでは、最新の天文学や宇宙に関する内容を積極的に取り入れたプログラム作りを行い、来場者の興味・関心を刺激するような番組作りを行っていく。

また、今年度より近隣他館でも導入が進んでいる年間パスポートの制度を取り入れ、定期的に来場するリピーターを確保し、さらなる入場者増に繋げていく。

### ●団体利用の促進

学校団体の利用は、児童・生徒にとって貴重なプラネタリウム体験の機会である。そのため、特に市内学校の利用率向上に努めていく。

また、保育園・幼稚園の団体利用があった後、来場した子が保護者とともにプラネタリウムを訪れるというケースが多い。近隣の保育園・幼稚園の団体利用も積極的に誘致していく。

さらに、近年は放課後等デイサービス（障害を持つ就学児向けの福祉サービス）の利用が増加している。こうした団体による利用にも対応していく。

### ●天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、月に1度の観望会「ほしぞらウォッチング」の実施や小学生対象の講座「ほしぞら友の会」を行っている。これらの天文普及に関する事業を通じて、科学に対して興味・関心を持ち、正しい科学リテラシーを持つ子どもたちを育み、将

来を担う人材育成の場としていく。

● ほしぞらスタッフ（ボランティア）による天文普及活動の支援

ほしぞらスタッフ（ボランティア）は、現在市内外より 45 人の登録がある。観望会やイベントの企画・実施の他、クリスマス番組制作などにおいても活躍をしている。今後、ボランティア自身が楽しめるような活動のあり方を検討していく。

● 広報活動の見直しと工夫

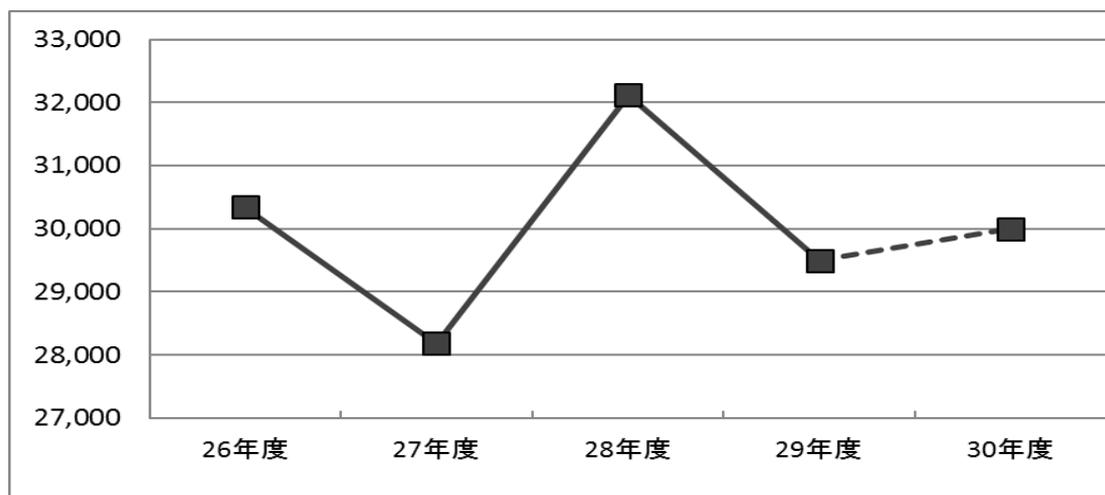
これまで学校団体や幼稚園・保育園へ案内送付を続け、団体利用の促進を行っている。さらに、市内小学校の利用者（児童）には招待券を配布し、その後の来場に繋げる工夫をしている。また、個人来館者へは、近隣施設へのリーフレット・ポスターの設置、アンケート回答者（5,500 件）への案内送付など、入場者数増に向けた広報活動を進めている。また、近年は Facebook や Twitter など、SNS の口コミを利用した広報も行っており、一定数の効果があると考えている。

【 数値目標 】 ●入場者数 【30,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※29 年度は見込値、30 年度は目標値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入場者数	30,345	28,186	32,114	29,500	30,000
対前年比	104.6%	92.9%	113.9%	91.8%	101.7%
対前年人数	1,340	△ 2,159	3,928	△ 2,614	500



## ⑥ 公2「文化芸術振興事業（文化講座運営事業）」

平成 30 年度、新規事業「にっこり文化講座」として文化講座運営事業をする。

今まで、宗像文化サークルの講座事業については、西日本新聞社と TNC、宗像市が共同出資した株式会社として、宗像ユリックス設立時より開始され 29 年の歴史を持つ事業として運営されてきた。

今回その事業を継承し、これまで宗像ユリックスを学びの場としていた多数のお客様に対して、今まで同様のサービスを継続して提供していくとともに、宗像ユリックスの文化芸術振興事業、プラネタリウム事業、貸館事業、健康増進事業などとの連携を強化し、新たな文化講座を企画提案して、新しいお客様を開拓することを目指していく。

今まで宗像ユリックスで行ってきた、優れた文化芸術の体験機会の提供、文化芸術を担う人材の育成、市民の文化活動の支援を拡大することになり、地域における文化芸術の振興を図り、それによって培われる文化芸術の力をまちづくりに活かすことで、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。

また、市内で既に実績のある、市民学習ネットワークや各地区コミュニティ・センターでの文化講座事業との連携を模索し、市民の居場所、学びの場、コミュニティの場としての宗像ユリックスとしての役割を果たしていく。

### ●人々の心豊かな生活に貢献するために。

「文化芸術を活かしたまちづくり」の取り組みとして、文化講座事業を実施する。書く・描く・学ぶ・創る・健康・スポーツ・伝統芸能・音楽・一般教養・キッズ講座など幼児から高齢者まで、希望する全ての人々が学べる各種文化講座を開催するとともに、木曜日、金曜日の午前中の講座には無料の託児サービスを用意するなど、利便性の向上を図り、人々の心豊かな笑顔あふれる生活に貢献していく。年度途中にも、短期講座や新規講座を企画提案して、増強を図っていく。

講座数 95 講座（平成 30 年度当初予定）

分類	講座数	分類	講座数
音楽	23	語学	2
絵画	7	茶道	3
陶芸	1	趣味	22
華道・花	1	スポーツ	5
書道	2	文学	4
キッズ	6	料理	3
健康	16	合計	95 講座

【 数値目標 】 ●受講者数 【600人】

### ⑦公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

#### ●アクアドーム

国や宗像市の健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行う。

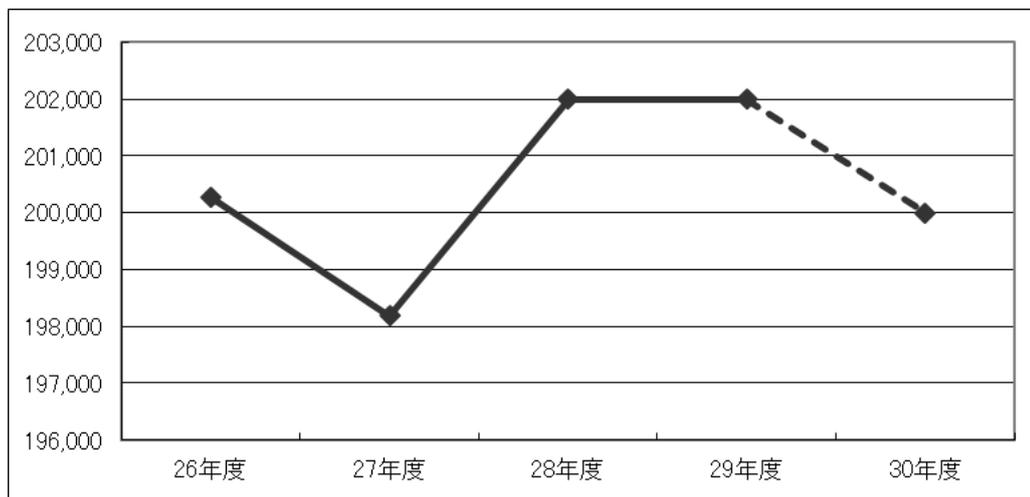
- (1) 健康づくりに関する情報の収集・発信は、ホームページやアクアドーム新聞等の広報媒体によって実施する。
  - ・主な事業であるウエルネスクラブ・スイミングスクールや新たに取り組むサービス向上施策を、広報紙や新聞折り込みチラシを通して周知を図っていく。
  - ・アクアドームで行われるイベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」をコミュニティ・センターに配布する。
  
- (2) 特定保健指導や介護予防事業、スポーツ推進計画など宗像市の健康づくり事業を積極的に実施する。
  - ・特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。
  - ・スポーツサポートセンター（仮称）との連携を強化する。
  - ・介護予防教室の受講生の受け皿を新設する。
  
- (3) 宗像市体育協会と連携し、体育協会主催の介護予防教室を共同開催する。
  - ・平成 29 年度で宗像市の介護予防教室が廃止になる。そこで、平成 30 年度以降の受け皿になるように連携を強化する。

【 数値目標 】 ●入場者数 【200,000 人】

アクアドーム入場者数の推移

※29年度は見込値、30年度は目標値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入場者数	200,266	198,181	202,000	202,000	200,000
対前年比	99.3%	99.0%	101.9%	100.0%	99.0%



●ゆ〜ゆ〜プール

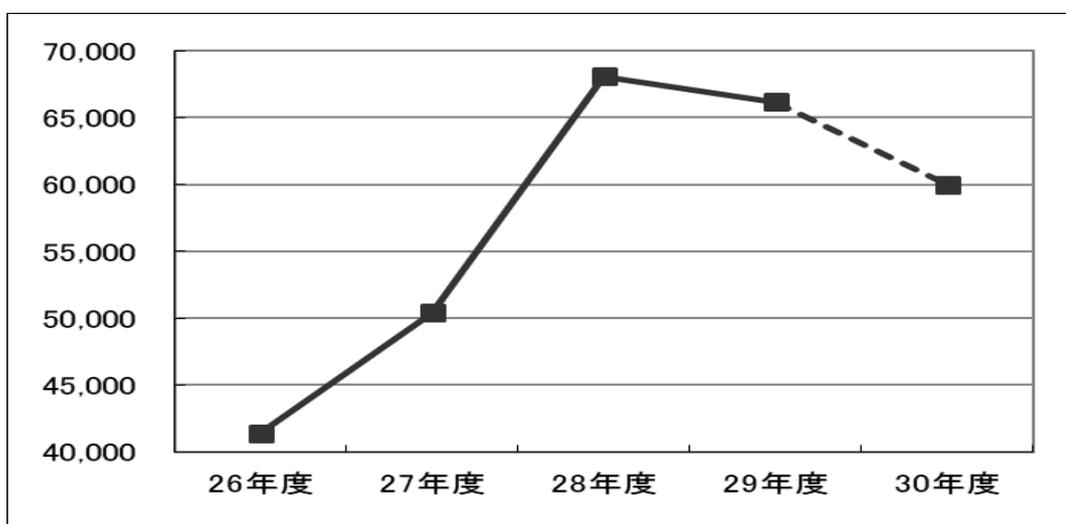
プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなった。これに併せ、幼児・小学生低学年が楽しく安全に遊ぶサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【60,000 人】

ゆ〜ゆ〜プール利用者数の推移

※30年度は目標値

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入場者数	41,430	50,405	68,089	66,159	60,000
対前年比	74.7%	121.7%	135.1%	97.2%	90.7%
対前年人数	△ 14,047	8,975	17,684	△ 1,930	△ 6,159



### ⑧公3「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

健康増進事業や様々なスポーツイベントを開催することにより、心身健やかな市民と活力のある地域づくりを目的とする。

#### ●「食」に関する事業の取り組み

アクアドームは、管理栄養士を配置しており、「食」に関する知識を高め健康づくりに活かすことを目的に以下の事業を実施する。

- ・管理栄養士による食品づくり教室の開催（食育・健康づくり）
- ・コミュニティ・センターでの調理実習・・・クッキングメイツ、男の料理教室

#### ●愛好家を対象とした事業

ドーム内での運動活動支援に限定せずに、運動愛好家を対象とした事業を積極的に実施することで、お客様の期待に応えていく。

- ・ランニング練習会(年12回)
- ・アクアビスクイイベントの開催
- ・一般利用者向けスイムビデオ撮影
- ・祝日に開催するスタジオレッスン、その他年4回のスタジオイベントを開催
- ・夏季限定（7.8月）に水中運動教室、水泳教室を開催
- ・登山イベント
- ・わくわくクラブの設立及び実施（介護予防事業の受け皿）
- ・調理実習関係（クッキングメイツ、男のクッキング）の実施

#### ●新規事業・・・「音楽」と「運動」を組み合わせたオリジナルメニュー提案

いきいき出前コンサートと連携し、運動指導員が行う簡単な運動実技と組み合わせた新たな事業を実施する。

**(3) 法人運営****① 組織・運営体制**

職員の体制については、現在の中核職員中心の体制を維持する。職員研修の充実を図り、財団職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

**【 ユリックス職員数 】**

(30. 4. 1 現在)

職 種	総務部	事業部	計	備 考
中 核	2	3	5	市派遣職員含む
専 任	1	3	4	
嘱 託	3	5	8	
臨時A	5	11	16	
臨時B	0	7	7	
計	11	29	40	

**② 財政運営**

平成 29 年度は、ハーモニーホールとイベントホールを改修工事のため 4 月に閉鎖した影響もあるが、ゆ〜ゆ〜プールの利用者が好天に恵まれて増加したこともあり全体的には利用者、利用料ともに増加している。文化事業においても、チケットの売上増加に努めていく。

支出面では施設の修繕費などが年々増加傾向にあるため、注意が必要である。

平成 30 年度は、第 4 期指定管理事業の最初の年となり、文化講座事業の開始などで全体事業費が増加している状況であるため、講座の収入と自主事業の収入の増加を目指した取り組みを実施していく必要がある。

**【 指定管理費の推移 】**

予算ベース 年額	第一期 指定管理費	第二期 指定管理費	第三期 指定管理費	第四期 指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000	367,328,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000	△1,500,000